

令和3年度 北九州市立菅生中学校便り 学力向上通信

学力特集号

令和3年11月10日
北九州市立菅生中学校

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

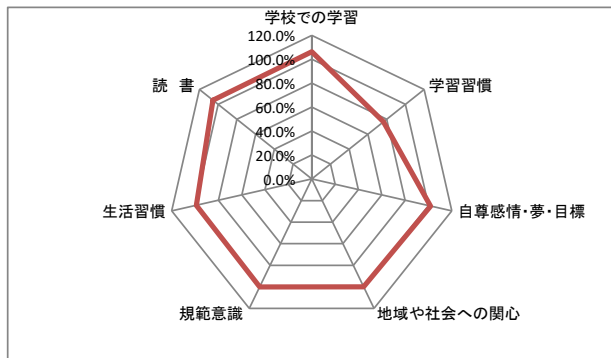
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	言語についての知識・理解・技能については、全国平均正答率と同程度の正答率であったため、授業や日常生活で得た知識や技能を活用できている傾向にある。話す・聞く能力、読む能力についての問題は、全国平均正答率と離れていた。	下回っている
数学	数量や図形などについての知識・理解、資料の活用については他の分野よりも正答率が高かったため、授業で学習した知識の定着がうかがえる。数と式、図形の問題については、全国平均正答率とは離れていた。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○学校へ行くのが楽しいと答えた生徒は全国平均を大きく上回った。 ○毎日朝食をとる・決まった時間に就寝起床している生徒の割合が高く、規則正しい生活を送ることができている。 ○スマホ・携帯電話の所持率が増加したが、家庭や学校でのスマホ・携帯電話の使い方に関する啓発もあり、決まりを守って使用する生徒の割合が増えた。 ○将来の夢や目標を持っていますかについては全国平均を下回っているため、将来の見通しをもった進路学習の充実が必要である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 普段の授業の中で板書計画用ノートを作成し、生徒の思考の過程を想定した授業づくりを実践する。
- 問題を工夫して解決の見通しをもたせ、考えを広げたり、深めたりする話し合い活動を行う。その際、生徒に、自分の考えた過程をノートに記入させ、話し合い活動を通して、他者の考えからわかったことを記入させる。
- 話し合い活動を通して学んだ題材を利用して、定期考査で問題解決を考える過程を答えさせる問題を出題する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習用のプリントやタブレットの学習ドリルを活用し、長期休みや週末等の課題として出し、評価・点検する。
- 定期テスト前に学習計画表を作成し点検・指導することで見通しをもって学習ができるようにする。
- 定着度診断シートを活用して、既習の学習内容を復習させたり、結果を基に自分の弱点を補充したりする学習を行わせる。